

## 輿・駕籠用 座敷簾

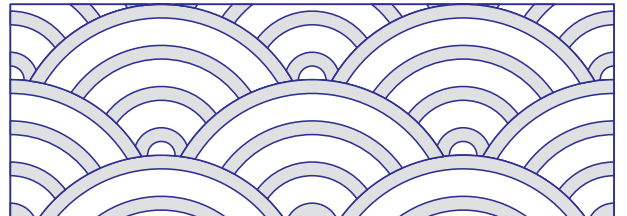
通常の座敷簾よりもサイズが小さく、中央部分には外部の様子を伺うための＜覗き窓＞が備えられ、上部だけでなく下部にも簾を固定するための金具が付いていることなどから、輿（こし）や、駕籠（かご）、牛車（ぎっしゃ）などで使用された簾と思われます。表と裏に意匠が施されているのも大きな特徴で、表面には金色で簾全体に＜青海波（せいがいは）＞が描かれ、裏面にはかわいい小鳥が描かれた珍しい簾です。

### ● 駕籠



駕籠（台）を長い柄の中心にぶら下げて、前後を担いで人を運ぶ乗り物です。室町時代に登場し、江戸時代に広く使われました。写真は、岡山県の「津山郷土博物館」に所蔵されている＜津山松平藩主 所用乗り物＞です。「物見」と呼ばれる明り取りと、外を見るための窓に、簾が吊り下げられているのが見て取れます。

### ● 青海波（せいがいは）



日本の伝統的な紋様のひとつです。

### ● 覗き穴



### ● 鳥の絵



サイズ：約 W500×H1000（2枚）

年代：不明